



東京八王子プロバスクラブ

創立 1995 年 10 月 18 日

2025~2026 年度 テーマ

「楽しみ、学び、互助精神、奉仕を通じて輝くシニアライフを！」

プロバスだより

2025 年 11 月 13 日発行

第360号

編集・発行 情報委員会

第 360 回例会

日 時 令和 7 年 10 月 9 日 (木)

場 所 八王子エルシイ

出席者 30 名 出席率 88.2%

(会員総数 38 名、欠席 4 名、休会 4 名)

1. 開 会

岩島例会副委員長

第 360 回例会開催を告げ、配布資料の確認が行われた。

2. 会長挨拶

持田会長

いよいよ今期の最大のイベント「クラブ創立 30 周年のつどい」が約 2 週間後に迫りました。本日は 30 周年の記念行事に全員で取り組むということで、臨戦態勢の例会と致しました。通常の同好会報告や卓話を次回に回し、時間を割いて記念行事の全容詳細と役割分担の説明を実行委員会から行うことに理事会で決定致しました。



なお、宇宙飛行士講演会は泉副委員長、式典は山本副委員長からの説明になります。

それでは 30 周年の準備状況概要を説明いたします。講演会の方は、330 名の定員のところ 370 名の応募があり抽選を行い当選者へ 10 月初旬間もなく通知するところです。これは事務局となっているこども科学館が行っております。Jaxa 宇宙飛行士とのやり取りは筑波の方とわれわれ実行委員がやり取りしております。とても開催規定が厳しく、そのルールを順守しながらの運営・実施になります。

また、式典の方は、当初参加者数は 120 名で予定していましたが現在の集計では 130 名になりそうです。全国の 11 のプロバスクラブから約 40 名、ご来

賓が 18 名、会友が約 40 名、八王子プロバス会員が 33 名です。当日のわれわれの準備対応を完璧にして、万全な態勢でお迎えしたいと思います。

3. ハッピーボックス披露

丸山副会長からハッピーボックス 20 件の披露がありました。(3~4 ページに掲載)

4. バースデーカード贈呈

10 月生まれの会員に池田会員手作りのバースデーカードが贈られました。



(写真左から丸山会員、岡本会員、会長、土井俊玄会員、立川会員)

5. 各委員会からの報告

(1) 地域奉仕委員会

持田委員長

第 3 回の合唱祭については、現在、8 校までほぼ確定。昨年よりも少し低調。理由は合唱部の活動を中止している学校が出てきている。生徒が集まらないようだ。吹奏楽は盛んであるが合唱部員は集まらないという状況。今後さらに応募校を募る。10 校にはしたい。

(2) 30 周年記念事業実行委員会

持田委員長

講演会については、配布された資料に基づいて、泉副委員長からは当日の講演会の全体の流れなど、山本副委員長からは、車人形、合唱、また芸妓衆の踊りがあるので、それへの対応についての説明があった。

最後に、質疑応答で、撮影については、一般者は撮影禁止、指定された撮影班は腕章着用することになったとの報告があった。また、講演会場およびレセプションに多数の参加者が見込まれるので、大変な混雑が予想される。会場係りは相当な流れ管理をすることが重要課題である。

6. その他

シニア・ダンディーズの活動報告

シニア・ダンディーズは令和7年10月5日(日)、いちょうホール(大ホール)においてDr.肥沼の偉業を後世に伝える会が主催する「ありがとう10周年」に出演しました。「一番はじめ」「大地讃頌」「信じる」の三曲を演奏しました。メンバーの皆さんの大変力強い歌声は大きな会場に響き渡り、多くの観客から盛大な拍手をいただきました。



第46回八王子いちょう祭り開催のお知らせ

いちょう祭り祭典委員会 岡本 宝蔵

市民による市民のための市民手作りのイベントとして46回目を迎えます。第34回目(平成25年)以降50万人を超える来場者を迎える、多くの方々が参加し喜ばれるお祭りへと大変貌を遂げました。第46回目の今年は「祝昭和100年記念」をテーマとして記念事業を行います。昭和54年(1979年)に第1回が開催されてから令和7年で第46回を迎えます。今年は激動の時代、復興、成長の時代「昭和」がスタートしてから100年目を迎える年になります。今年も皆様のご協力を得て事故や怪我がなく安心安全で楽しいいちょう祭りにしたいと思います。

例年通りD会場を担当する事になり、受付、案内、資料配布等々が担務です。ボランティア参加頂ければ有難く存じます。

日 時 11月15日(土)9時~17時

16日(日)9時~16時30分

会 場 陵南公園分園

7. プロバス賛歌齊唱

8. 閉 会

丸山副会長

例会にご出席ありがとうございました。創立30周年のつどいが間近になりました。本日の例会後に当日の皆さんにお願いする業務分担の説明があります。よろしくお願いします。開催日の10月26日には会場の京王プラザホテルにお集まり下さい。

以上で本日の例会を終了します。



昔の星空を眺めてみたら

永井 昌平

子供のころ、夜空を見ながら、母に星の名前を教えてもらった。覚えたのはオリオン座の三つ星と北斗七星ぐらいである。大人になってからは夜空を見上げることが少なくなった。人里離れたところで夜空を見上げると、美しいというよりは威圧感を覚える。どうも星空は好きではない。



古代の日本人も星に興味を示さなかったのか、星に関する記述は比較的少ない。暦も輸入品であり、平安時代の宣明暦(862)から江戸時代の貞享暦(1685)まで改暦がなかったというから、天体観測には興味がなかったのであろう。

古代の日本人は天空をどのように考えていたのであろうか。奈良時代初期に編纂された「播磨国風土記」託賀郡条によると、空にはドーム状の天井があり、水平線・地平線で繋がっていると考えられていたようだ。(図1)

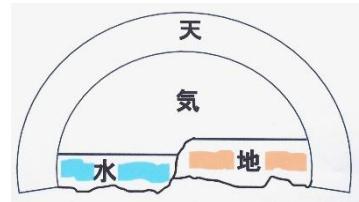


図1 古代の宇宙観

今ではロケットを飛ばして天井を貫き、人工衛星という星を作ってしまった。

枕草子に「星は昴、牽牛、太白星、よばい星少しおかし。尾だになからましかば、まいて」とある。よばい星は流れ星のことで、なぜか「流れ星もいいが、尾がなければもっといい」といっている。また、「名恐ろしきもの」には矛星(彗星)が入っている。

清少納言は尾のある星が嫌いなようだ。尾もなく動いていく人工衛星を見たらどう思うだろう。

「やばい星」とでも呼ぶのだろうか。

天文学を理解すると面白いことが検証できるようだ。「奥の細道」の中に「荒海や佐渡に横たふ天の川」という句がある。この句は出雲崎で詠まれたといわれているが、本当に「佐渡に横たふ」ように見えたかどうかを検証している（斎藤邦治：古天文学の散歩道）。芭蕉が北陸路を旅していた1689年8月22日午前4時ごろの弥彦山から見た夜空が図2である。白鳥座の十字形を囲んだ天の川は佐渡島に直立し、「佐渡に横たふ」ではなかったようだ。どうも俳句の心はわからない。

地球は歳差運動（コマの回りが遅くなった時の首振り運動）をしている。この運動の周期は約2万6千年である。そのため、星空も時代によって変わっていく。数百年ぐらいならあまり変化はないが、数千年もすればかなり変化する。縄文時代中期、三内丸山が全盛であった頃

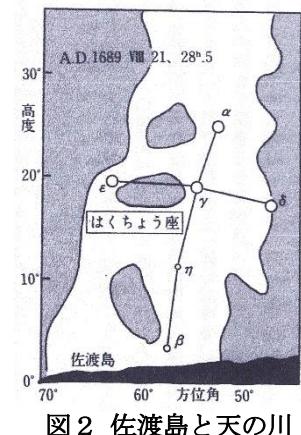


図2 佐渡島と天の川

の星空はどんなであったろう。図3は三内丸山あたりから見た現在の北の空であり、図4は4,500年前の縄文時代の空である（伊達宗行：理科で歴史を読みなおす）。歳差運動のため、天の北極は図3の点線に沿って反時計回りに回転していく。現在は北極点のそばに北極星があるが、縄文時代の北極点は×印のところにあった。近くには目立った星はなく、北斗七星が北極点の近くを回っていた。その様子が図4であり、現在の北極星は右下に離れていた。

縄文人にとって北斗七星が重要だったであろう。彼らはこの夜空を見ながら、糸魚川産のヒスイや久

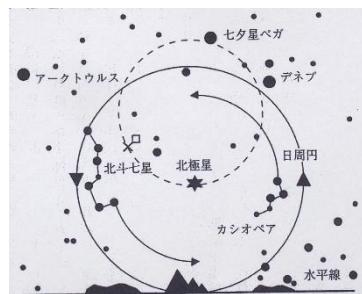


図3 現在の星空

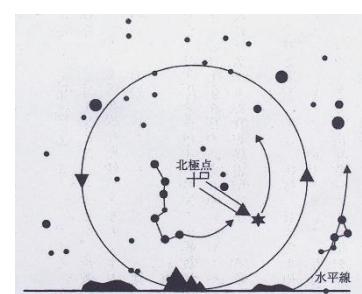


図4 縄文の星空

慈産のコハクを身に着けて酒盛りをしていたのであろう。

こう見ると天文学も面白そうであるが、いまさら勉強する気にもならない。やはり、天体嫌い、星嫌いのまま過ごすのであろう。何かの時には、人の樺で相撲を取った方が楽そうである。



◆94年前の今日、生まれました。毎日元気に生きていることに幸せ。自分の足で歩けて幸せ。ごはんがおいしくて幸せ。仲間とたのしい時間があって幸せ。 ALL HAPPY !! 立川富美代

◆シニア・ダンディーズの快挙です。NHK 音楽コンクール MV 部門（ミュージックビデオ部門）に応募しました。全国 200 もの合唱団体の中で、全国放送されることになりました。合唱が10月12日16:00頃、NHK・E テレ(2 チャンネル)で放送されます。短い時間ですが全国に放送されます。

立川富美代

◆30周年記念式典の成功を祈念して！ 有泉 裕子

◆10月5日「ありがとう10周年Dr.肥沼の偉業を後世に伝える会」に出演してくださったシニア・ダンディーズの皆様、ご苦労様でした。お陰様で祝賀会は盛況で、成功裡に終わりました。また、応援に来てくださったプロバス会員の皆様、ありがとうございました。 岩島 寛

◆ノーベル賞生理学・医学賞の坂口志文さん。続いてノーベル賞化学賞の北川進さん。おめでとうございます。若手の研究者にとって大きな励みとなることでしょう。我々日本人にとっての誇りです。 飯田富美子

◆「クラブ創立30周年のつどい」が迫ってきました。皆で力を合わせ立派な記念行事となりますように！！ 私事も。先日、4日間の青森県ツアーに行ってきました。竜飛岬から大間まで。途中、十和田、奥入瀬など。元気をいっぱい頂いてきました。 飯田富美子

◆ノーベル賞生理学・医学賞、化学賞と2人の受賞にはびっくりしました。若い人たちのシゲキになれ

ばと願っています。

橋本 鋼二

◆心臓病手術後 3 年目。諸検査が無事通過し、クラブ創立 30 周年に間に合いました。感謝！！

杉山 友一

◆予想外でしたが、母校出身者から 2 人のノーベル賞受賞者がいました。何だかうれしくハッピー！

馬場 征彦

◆今年のメインは「30 周年のつどい」です。全員で力を合わせて祝いましょう。

馬場 征彦

◆「足音にぴたっと止まる虫の声」旅人(たびと)

野口 浩平

◆明日から 3 連休に夫と娘たちと息子の住む沖縄に行ってきます。どれくらい歩けるか疑問ですが、楽しんで来ます。

根本 照代

◆30 周年記念事業を祝して！

内山 雅之

◆いよいよ創立 30 周年の式典開催日が迫って参りました。準備万端、憂いなく進めましょう！！ そして、全員で全国からの皆さまを温かくお迎えしたいと思います。喜んでもらえて私たちも HAPPY !!

持田 律三

◆ようやく朝晩は秋らしくなってきました。インフルやコロナが流行っているようですから、体調管理に気をつけたいと思います。

一瀬 明

◆シニア・ダンディーズ、N コンの動画参加で選ばれて全国放送の快挙。立派ですね。おめでとうございます。30 周年に華を添えてくれました。

一瀬 明

◆八王子学園八王子高等学校吹奏楽部は東京代表に選ばれ、全国大会に今年も出場します。応援をよろしくお願いします。また、水泳部、陸上競技部の生徒が国民体育大会にて 8 名も入賞者を出し、活躍しました。

塚本 吉紀

◆(ハッピー) 幸福の方程式。幸福=財/欲望 (欲望分の財) 西洋哲学では分子ができるだけ増やすこと、東洋哲学では分母ができるだけ減らすこと、だそうです。

泉 道夫

◆9 月場所で大相撲西小結の安青錦が 11 番勝ちました。福岡の 11 月場所関脇で 11 番勝って大関へ。

丸山 恭

◆11 月場所の入場券は 9 月 20 日に完売。ふた昔前の 11 月場所は拝席をばら売りしていました。

丸山 恭

俳句 同好会便り

私の一句 (十月の句会から)

河合 和郎

今月の句会の兼題は「音」。全員の兼題句を紹介しよう。陰暦 10 月 12 日は俳聖松尾芭蕉の命日。

俳句の季語として、芭蕉忌や時雨忌などがおなじみ。生涯のすべてを俳句の道に捧げ、俳句を文芸の域にまで高めた。「旅に病んで夢は枯野を駆け廻る」は生涯最終句。

虫の音に励まされつつ皿洗ひ 馬場 征彦

作者は「皿洗いは私の仕事」として家事に協力しているという。「励まされつつ皿洗い」と台所に立ちながら俳句を楽しんでいる。

旅の宿夜汽車の遠音星月夜 田中 信昭

地に底を這うように夜汽車の音が聞こえてくる。旅の宿で聞く夜汽車の遠音がなにか切ない。外は満天の星空。詩情豊かな作品となった。

木の実落つ小さな秋の音立てて 池田ときえ

空気の澄んだ秋は小さな物音もよく聞こえる。木の実の落ちる音は大きな音ではないが秋を感じさせる音として作者の心に響いている。

足音にぴたっと止まる虫の声 野口 浩平

日常よく体験する事象。盛んに鳴いている虫が人の気配を感じると「ピタッ」と鳴き止む。通り過ぎるとまた何事もなく鳴き始める。

奥入瀬の小滝に宿る秋の音 飯田富美子

紅葉に包まれた奥入瀬渓谷の秋景を詠んだ。渓流美と紅葉の美しさ、加えて姿・形の異なる滝の数々。音に焦点を合わせた旅の記念句でもある。

風一陣木の実時雨の音しきり 河合 和郎

今年日本の各地で見られる熊の異常な行動は、この木の実の不作も一因とか。それぞれに穏やかな自然の移ろいであって欲しいもの。

編集後記

プロバスだよりは、平成 7 年 (1995) 11 月 9 日の第 1 回例会の開催を機に発刊されて以来、毎月発行を継続してきました。そして今年、創立 30 周年を迎え、本号で 360 号になりました。

情報委員会

